

## 東京 IPO 特別コラム

---

2017年12月6日 Vol.104

### 師走の IPO は一気に22社

師走相場に入り慌ただしさを増しつつある今日この頃ですが、読者の皆様にとっても2017年の年の瀬はきっと多忙な日々が続いているものと拝察致しております。半島情勢の緊迫化を横目にしながらも日経平均は NY ダウの上昇などに下支えされ2万3000円を前にして比較的堅調に推移してはおりますが、東京エレクトロンやファーストリテイリングなど限られた銘柄に左右されがちの展開です。一方、JASDAQ や東証2部、マザーズといった中小型株指数は先行して上昇してきただけにやや頭重くなりつつあるように感じられます。

そうした師走相場に彩りを添えるのが株式市場に IPO してくる銘柄群。12月7日のアトリエはるかが直前になって承認取り消しとなるなどやや波乱含みではありますが、12日の一家ダイニングプロジェクト(9266・マザーズ)から始まり26日のオプティマスグループ(9268・東証2部)まで現時点では22社(うち6社が東証1部にダイレクト上場)の IPO が予定されており、投資家の皆さんは上場後の成長に期待を寄せることとなります。短期的には波乱の多い IPO 銘柄の株価変動ですが、中長期的な成長を読み取れば発行株式が限られているだけに投資家の資産形成にも大いに貢献するものと期待されます。

IPO 直後は認知度が低いかと思いますが、IR 活動を通じて認知度を高めていければ仮に IPO 後に株価が低迷したとしてもリスクマネーを投じる多くの投資家が注目することになります。時折 IPO 後に業績の下方修正を行うケースもありますので、その場合は注意が必要ですが、IPO 企業の多くは成長意欲が旺盛。2、3年程度寝かすつもりで内容が面白いと感じられる IPO 銘柄に投資するなら、比較的高い投資成果が得られるものと期待されます。今回の IPO22 銘柄の成長性は果たしてどうでしょうか。

一般的に IT 系の銘柄は成長期待が高いため、事業規模が小さくても IPO 時に高く評価されがちです。経常利益が2~3億円しか出ていなくても初値の時価総額が207億円となった金融機関向けシステム開発のサインポスト(3996・マザーズ)はその典型です。同様に証券システム開発のトレードワークス(3997・JQ)も公開価格に対して初値が6.2倍となり、時価総額が139億円にまで高まりました。中にはいくら成長意欲が旺盛だからと言って何もここまで評価することはないだろうというケースも出て参ります。その場合は多くが IPO 後に調整することになりますので、事業内容と成長性を十分に吟味しながらじっくりと投資にあたって頂く必要があります。

一方で業態が地味な場合は初値の評価は低いのが一般的で、株価は IPO 後も PER が10倍前後と低評価に放置され不人気局面が続きがちです。そうした企業でも地道な企業業績向上や積極的な IR 等によって企業認知度が高まれば株価の上昇につながるものと期待されます。今年の師走 IPO22 社に大いに注目したいと思います。

(東京 IPO コラムニスト 松尾範久)